

編集委員長からのお詫び

4月号以降の「天気」において不良本（白紙ページあるいは二重印刷など）が発生し、また活字と活字の間の詰め物（クワタ）による印刷の汚れも多発し、会員の皆様にご迷惑をおかけしております。また6月号において根本会員から「誤植の少ない雑誌を」とのご指摘をいただきました。これらの問題点について、その原因・再発防止策・編集委員会での検討結果などについて、現状をご報告し、会員の皆様のご理解をお願いする次第です。

(1) 白紙印刷については、強烈な静電気によって用紙が重なり、重ね送り防止機構のチェックをくぐって印刷機に用紙が送られたため発生しております。二重印刷については、試験印刷と本印刷の間に挟む「仕切り」の挿入ミスで発生しております。

従来このようなミスはいつでも製本の段階でチェックされておりましたが、4月号より、製本の完全自動化を行ったため、このようなミスが生じたものと思われま

す。対策として7月号からは製本段階での人手によるチェックを当分の間行うことといたしました。

(2) 詰め物による印刷の汚れについては、以下のような原因で発生しているものと思われま

す。電算写植の普及に伴い活版印刷機の製造が中止され、修理部品の調達にも不便をきたしています。現在使用中の印刷機の修理は、廃棄処分された機械から適当な部品を捜して行っている状態です。このため修理に時間がかかり、その期

間、代替機として老朽化して使用を中止している機械を使用して印刷を行うため、長時間にわたって印刷を行うと、圧力の調節などに問題が生じ、詰め物が浮き上がって印刷の汚れが発生しているものと思われま

す。これについては、機械の運転状況を正確に把握して印刷を行うように印刷会社に指示いたしました。

(3) 誤植を少なくする（最終的にはなくす）ことは編集作業にとって最も重要なことです。このため編集委員・編集書記とも努力を怠ってはおりませんが、会員から

ご指摘があったように、誤植が見られることは大変残念です。さらにこのことを指摘された「会員の広場」の文章にも誤植が発生するという笑えぬ事態となっております。これは事務局の手違いで著者校正ができなかったため、著者には大変ご迷惑をおかけいたしました。この

場を借りてお詫びいたします。誤植をなくするために編集委員会でも検討を重ね、ごく短い埋め草記事以外は総て著者校正を行うことといたしました。このため最終稿を印刷所に搬入する日時が厳しくなりますので、投稿されま

す方のご協力をお願いいたします。

以上、現時点における問題点と対策とを申し述べました。今後とも「天気」の質の維持・向上に努力致す所存です

ので、会員の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

(藤谷徳之助)

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
第20回測地学・地球物理学連合総会	1991年8月11日 ～24日	IUGG	ウィーン	Vol. 36, No. 12
第8回エアロゾル科学技術研究討論会	1991年8月21日 ～23日	エアロゾル研究協議会	総評会館（東京）	Vol. 38, No. 3
HEIFE（地空相互作用に関する日中共同研究）ワークショップ	1991年9月22日 ～28日		中国（蘭州）	Vol. 38 No. 1
『小氷期の気候』国際シンポジウム	1991年9月25日 ～28日	日本地理学会古気候復元研究グループ	八王子（東京都立大学）	Vol. 37, No. 8
日本気象学会平成3年度秋季大会	1991年10月23日 ～25日	日本気象学会	名古屋国際会議場	Vol. 38, No. 5
日本海洋学会創立50周年記念大会	1991年10月14日 ～19日	日本海洋学会	カンダパンセ（東京）	